



当院における成人脳性麻痺患者等の移行支援の取り組みについて

医療法人社団うすい会 高陽ニュータウン病院 理学療法士 鳴谷 孝仁
一般社団法人 広島県立総合リハビリテーションセンター 医師 志村 司

①背景

○当院紹介

高陽ニュータウン病院
広島県広島市安佐北区に設立
140床（一般急性期と療養病棟）
診療科：内科、消化器内科
循環器内科、整形外科
脳神経内科、眼科
小児科



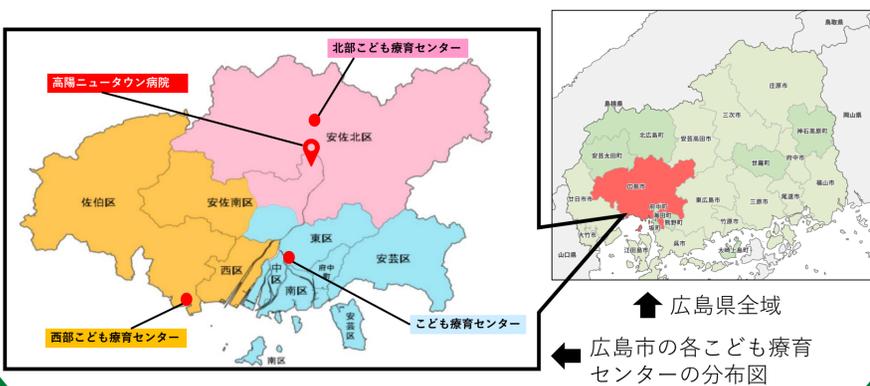
リハ施設基準：呼吸器リハ、運動器リハ、心大血管リハ
脳血管リハ、廃用症候群リハ、がんリハ
入院患者の平均年齢：89歳

○広島市の成人脳性麻痺患者等の社会的状況

広島県広島市内の脳性麻痺患者等は、各エリアのこども療育センターにて高校卒業までリハビリ支援を受けている。卒業以降は企業・作業所への就労や自宅介護にて過ごす。診療所での身体チェックの継続が必要。しかし継続して支援を行う病院・施設が少なく、居住地によっては通院が困難なことが問題となっている。

2009年、近隣の成人脳性麻痺患者の外来リハビリを、当院非常勤の志村Dr.より打診、受け入れが開始された。

現在、北部こども療育センターを卒業した成人脳性麻痺患者等は、当院へ紹介され外来リハビリを実施。

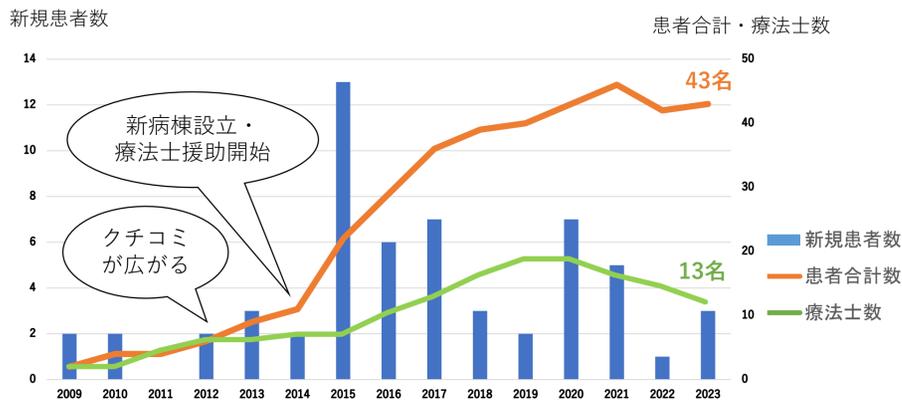


②目的

高齢者を中心とした当院における成人脳性麻痺患者等に関わる経緯やリハビリの現状報告と、課題検討を行う。

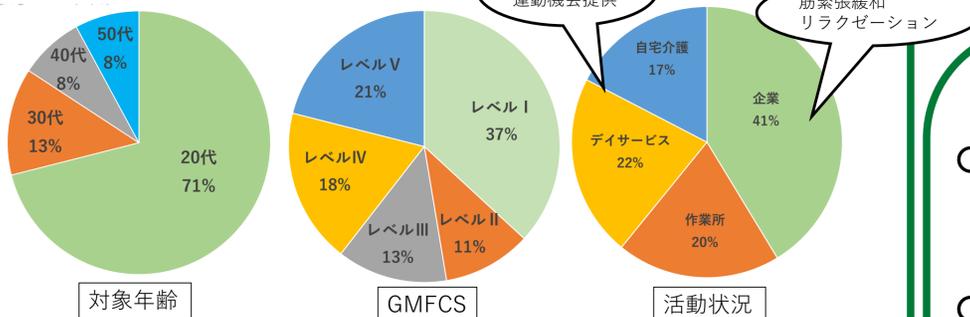
③リハビリの経緯・現状

○年ごとの新規患者数と合計人数、療法士人数



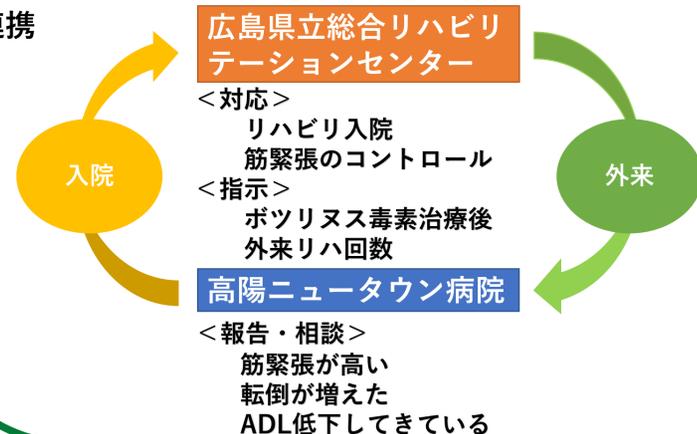
2009年に成人脳性麻痺患者等の外来リハビリが開始。2012年クチコミ拡大、2014年に新病棟が設立され、北部こども療育センターから紹介される新規患者数が年々増加する。広島県立総合リハビリテーションセンターから療法士のリハビリ援助も開始。

○対象症例



全体の7割(30名)が20代であり、重症度(GMFCS)は各レベルに対応している。企業・作業所で就労している患者は疼痛緩和で介入し、その他はADL確認・指導で介入し運動の場を提供。

○連携



④アンケート

○概要

2020年に外来患者・家族にアンケートを実施。(回答21名)
項目：リハビリ開始日、住まい、装具の有無
移動手段、ADL、リハビリへの希望・不満

○結果 (希望・不満のみ)

希望		不満	
身体機能維持	13	療法士の技術に差がある	5
疼痛改善	11	担当者が誰かわからない	2
心理的支援(仕事、恋愛)	6	担当者が変わる	2
生活へのアドバイス	4	療法士の技術不足	1
介護福祉用具作成・調整支援	4	希望する頻度で出来ない	1
食事状況に対する対応	1	希望する日にちでとれない	1

※身体機能だけでなく、仕事のストレスや人間関係など精神・心理的介入の希望もあり、相談等の対応が必要なケースもある。

⑤課題

○療法士の病態理解の向上

長期的に関わっていく中で、ADLや精神状態を見極めるスキルと治療手技を向上する必要あり。

○新規患者の受け入れ・リハビリ回数の調整

「希望する日時で予約がとれない」と不満があるも、入院リハビリやその他の外来リハビリ(整形外科・心大血管)もあるため、リハビリの回数の調整検討が必要。

○内科的疾患の診療

・患者の加齢に伴い、整形外科的症状のみならず高血圧、糖尿病等も内科にて併せて診療する必要あり。
・呼吸器疾患等を併発した重症の成人脳性麻痺患者等のリハビリを、安全に実施するための受け入れ体制の検討。

日本リハビリテーション医学会
COI開示

筆頭発表者名：鳴谷 孝仁

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業などはありません。